



バンドネオン・
三味線・
ジャズピアノ。
この3人でしか成立しない音が、
ここに生まれた。
世界に他では存在しない、
唯一無二のトリオ

MURA
Kazuma
MAO
Sho
SONE
Kobushi
Trio
ASANO

鼓武土トリオ

Kobushi Trio

2026/4/17 | 金 | 19:00

● 浜離宮朝日ホール

都営大江戸線「築地市場」駅A2出口すぐ

《8つの小品》より「ルンバ」(曾根麻央)

《ウェストサイド物語》より「トゥナイト」(L. パーンスタイン)

リベルタンゴ(A. ピアソラ)

HIBIKI (曾根麻央)

My Favorite Things (R. ロジャース)

八木節(曾根麻央)

さくらさくら幻想曲(曾根麻央)

竹田の子守唄

『ブエノスアイレスのマリア』より

Yo Soy Maria ～私はマリア～ (A.ピアソラ)

ほか

プレミアムシート

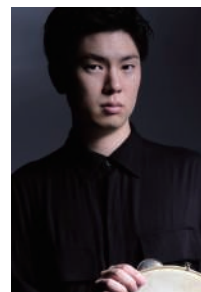
¥6,500 | 税込 | 良席・ポストカード付き

A席

¥5,500 | 税込

一般発売日

2026/1/31(土) 10:00～



MURA
Kazuma
MAO
Sho
SONE
Kobushi
Trio
with KAN

主催：株式会社 Moon

制作協力：Co One Degree 株式会社

問い合わせ先：Mitt 03-6265-3201(平日12:00～17:00)

三浦一馬 | バンドネオン

Kazuma Miura, Bandneon



2006年に別府アルゲリッチ音楽祭にてバンドネオンの世界的権威ネストル・マルコーニと出会い、その後自作CDの売上で渡航費を捻出してアルゼンチンに渡り、現在に至るまで師事。2008年10月、イタリアのカステルフィダルドで開催された第33回国際ピアノ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝を果たす。2011年5月には別府アルゲリッチ音楽祭に出演し、マルタ・アルゲリッチやユーリー・バシュメットら世界的名手と共演し、大きな話題と絶賛を呼んだ。2014年度出光音楽賞受賞。2010年9月NHK「トップランナー」に取り上げられ、近年ではNHK「あさイチ」「徹子の部屋」などに出演。テレビやラジオ出演も多数。2017年、ドイツにてドグマ・チェンバーオーケストラとマルコーニ作曲の「カーメラタンゴス」で共演。また自らが率いる室内オーケストラ「東京グランド・ソロイスト」を新たに結成し、さらなる活動の場を拓いている。また、NHK大河ドラマ「青天を衝け」の大河紀行音楽演奏を担当するなど若手実力派バンドネオン奏者として各方面から注目されている。2022年日本コロムビアより三浦一馬五重奏団「ピアソラスタンダード&ビヨンド」2024年8月にバンドネオン・レジェンド〜ベスト・オブ・ピアソラ&マルコーニをリリース。2025年ビクターより「バンドネオンシネマ」をリリース。使用楽器は、恩師ネストル・マルコーニより譲り受けた銘器、Alfred Arnold。

曾根麻央 | ジャズピアノ

Mao Sone, Jazz Piano



幼少期よりピアノを、8歳でトランペットを始める。2016年にパークリー音楽大学修士課程の第1期生として首席(summa cum laude)で卒業。在学中にはタイガー大越、ダニーロ・ペレス、ジョー・ロバーノ、ジョン・パティトゥッチ、テリ・リン・キャリントン等に師事、また共演。在学中よりニューポート、モントレー、モントリオール、トロント、ドミニカ等の国際的なジャズ・フェスティバルに出演。2014年国際トランペット連盟(ITG)ジャズ・コンペティション優勝、同年国際セロニアス・モンク・コンペティション・セミファイナリスト。2015

年千葉県流山市「ふるさとづくり功労賞」受賞。2018年に帰国後は東京を拠点とし、アルバム「Infinite Creature」(ポニーキャニオン)でメジャーデビュー。2022年『Brightness of the Lives』(Reborn Wood)を続けて発表。ジャズの聖地と言われるブルーノート東京には本年で3年連続の出演を果たしている。映画の分野では、自身が音楽制作を担当した『Trumpet』で東京ショート・ショート・フィルム・フェスティバルをはじめ、国内外の映画祭にて多数受賞。2023年には初のソロアルバム『Plays Standards』をリリース。リリースツアーの一環として中国ブルーノートツアーを行い、4日間の上海〜北京公演を成功させた。作編曲家としては、2018年ダニーロ・ペレスの『Jazz 100』公演の編曲提供、2019年のウェイン・ショーターのオペラ『Iphigenia』の一部の写譜、テリ・リン・キャリントンが音楽監督を務めた『Nat King Cole Christmas』公演の一部楽曲の編曲を担う。2024年公開の連続ドラマではピアノシーンの楽曲提供を俳優部への演技指導を行いながらするなど、インターナショナルに活動している。Official Website: maosone.com

浅野祥 | 三味線・歌

Sho Asano, Shamisen, Song



祖父の影響により、3歳で和太鼓、5歳で津軽三味線を始める。その後、三絃小田島流 二代目小田島徳旺氏に師事。7歳の時、青森県弘前市で開催される津軽三味線全国大会に最年少出場し、翌年から各級の最年少優勝記録を次々と塗り替える。

2004年 津軽三味線全国大会(旧大会名：津軽三味線全国大会)、最高峰のA級で最年少優勝(当時14歳)その後、2006年まで連続優勝し、3連覇を達成。同大会の規定により、殿堂入りを果たす。2007年17歳でビクターエンターテインメントより「祥風」でメジャーデビュー。以降、コンセルトヘボウ(オランダ)、ケネディ・センター(アメリカ)でのコンサートをはじめ、アメリカ、ヨーロッパ、カナダ、アジア各国でコンサートツアーを行うなど、海外に向けても積極的に発信する。民謡、Classic、Rock、Jazz、Pops、フラメンコなどジャンルにとらわれない演奏スタイルにより、石川さゆり、山下洋輔、宮沢和史、yamaなど、様々なアーティストとの共演を果たす。中学生時には元BOØWY・高橋まこと(ドラム)とバンドを組んでいた。近年では「日本遺産×芸能」をテーマに掲げる文化庁主催『NOBODY KNOWS』への参加など、日本文化の掘り起しや普及にも積極的に取り組む。また、日本各地の民謡を現代の感覚で作編曲する「MIKAGE

PROJECT」や複数の邦楽演奏家からなる「ART 歌舞伎楽団」に参加し、新たな音楽シーンを切り拓いている。愛用する三味線は三絃工房の「滋丹」日本屈指の三味線メーカーである三絃工房と、2023年に三味線奏者として世界初のエンドースメント契約を締結。このような国内外に向けて日本の伝統文化である津軽三味線の魅力を発信していく活動が認められ、浅野の活動が令和元年より政府公式プログラム「beyond2020」の承認事業プログラムに正式決定した。本来の民謡、古典芸能の追及はもちろんのこと、幅広い世代に三味線の魅力を伝えるべく、津軽三味線の可能性を追い求める孤高の若き津軽三味線奏者。2025年 曾根麻央(ジャズピアノ・トランペット・作曲)とのユニット「MAOSHO」を結成。ニューヨーク公演を実施、スタンディングオーバーションで大盛況となった。

KAN | パーカッション

KAN, Percussion



大阪出身のマルチパーカッショニスト。中学の時に吹奏楽部でパーカッションをはじめ。高校在学中は仙道さおり氏に師事。卒業後、ニューヨークでチェンボコルニエル、小川慶太氏、セルジオクラコウスキ、ホジェリオボッカートなどに師事する。

ニューヨーク在住中、日本大使館にてMIKA Mimura ERICKOSONバンドで演奏。2016年にボストンのパークリー音楽大学に入学。在学中はアランマレット、フェルナンドブランダオ、タイガー大越などに師事。2017年Banda Magdaの来日公演にてブルーノート東京に出演。2019年自身がパーカッショニストとして参加しているラテンフュージョンバンドDEJÀNにてスイス、チェコ、オーストリア、ドイツにて演奏。同年、ボストン州議事堂にて演奏。第63回グラミー賞「Best Immersive Audio Album」のカテゴリにおいて自身が参加したAlain Malletのアルバム「A Wake Of Sorrows Engulfed In Rage」がノミネート。2021年、ヨーロッパにて行われたEster Wiesnerovaのレコーディング、そして次年に行われたツアーにも参加。また、2022年イスラエル人ピアニストYotam Ishayのイスラエルツアーに参加。Snarky Puppyのマイケルリーグとビルローレンスが審査員を務めたコンペティション「Beyond Music」にて選出され、審査員二人がプロデュースしたアルバムに収録された。2022年、小曾根真氏の率いるビッグバンド「No Name Horses」のクリスマスジャズナイトにゲストとして出演。現在は東京を拠点に国内外問わず演奏活動を広げている。

プレイガイド	URL [PC/スマートフォン共通]／電話番号	コード	備考
ローソンチケット	https://l-tike.com/kobushi/	Lコード:34974	ローソン・ミニストップ店内端末「Loppi」にて一般発売日以降直接購入可能
イープラス	https://eplus.jp/kobushi/		ファミリーマート店内端末にて一般発売日以降直接購入可能
チケットぴあ	https://w.pia.jp/t/kobushi/	Pコード:319-221	セブン・イレブン店内端末マルチコピー機にて一般発売日以降直接購入可能
朝日ホール・チケットセンター	03-3267-9990 (オペレーター対応 日・祝除く10:00～18:00) https://www.asahi-hall.jp/hamarikyuu/		
MITT TICKET	03-6265-3201 (平日12:00～17:00)		一般発売日以降座席選択可能

※未就学児入場不可 ※車椅子席をご希望のお客様は、必ず公演の2営業日前までに MITT TICKETにてお電話でチケットをご購入いただきますようお願い申し上げます。お連れ様がご鑑賞される場合もチケットは必要です。
(連絡先) Mitt TEL：03-6265-3201 (平日12:00～17:00)